

農水省

輸出産地「新たに認定

J A愛知みなみ 切り花では全国初

【あいち】農水省は、農産物・食品の輸出に取り組む産地を後押しする「フラッグシップ輸出産地」に、J A愛知みなみ、まるゑい（三重県四日市市）などを認定した。東海農政局は3月中旬、認定証の授与式を開いた。全国で2回目の認定で、同農政局管内では初。切り花産地の認定も全国で初めてだ。



福井局次長（前列中央）から認定証を受け取った鈴木組長（前列右）ら

ら、認定証を受け取ったJ Aの鈴木照彦組長は「花きには、国境を越えて人に安らぎを

与える力がある。世界に日本の花きの美を広めたい」と述べた。

輸出拡大を図っている。物流対策では、鮮度保持などを目的に、産地から空港への直送を基本とする。現地量販店と連携したプライベートブランドの開発、少量パックや業務用に特化した規格を充実させるなどニーズに対応した販売を強化しているのも特徴だ。

まるゑい（三重） 茶の残留農薬対応

「フラッグシップ輸出産地」は、輸出先のニーズや規制に対応し、継続的に農産物・食品を輸出する産地を、農水省が認定するもの。本年度からの取り組み。林業、水産業を含めて全国で80産地が認定されている。

J Aは、切り花（グロリオサ、スイートピー）の輸出先として、2014年に輸出を始めた。現在の主な輸出先は中国、米国。発光ダイオード（LED）照明を用いた補光やヒートポンプを使った冷房で、花が大きい、輪数が多

い、花茎が太くて長いといったニーズに合ったスイートピーを輸出する。グロリオサは、オランダにおける国際園芸博覧会でのコンテストで、22年に最高賞を受賞している。

まるゑいは、茶の輸出産地として認定された。地元生産者と連携し、輸出先の残留農薬基準に対応する。名古屋市中区の農政局で福井逸人局次長か